

予防接種

● ワクチンデビューは生後2か月から！

首の座る頃（生後3～4か月）から外出（感染）の機会が増え、お母さんからもらった免疫も低下していきます。だから、その前に予防接種をしておくことが重要です。予防接種は、2か月のお誕生日から始めましょう。

妊娠中の風疹抗体価が低かったお母さんは、一緒に風疹ワクチンを接種しましょう。産後すぐから接種してもかまいません。また、風疹抗体価の低い方は、はしかの抗体価も低い可能性があるため、MR（はしか・風疹）ワクチンを接種する事もできます。

● 同時接種でスケジュールをたてよう！

赤ちゃんは、生まれてから1年で多くの種類の予防接種を複数回接種しなければなりません。同時接種でないと、接種開始時期が遅くなってしまい、感染のリスクが高まってしまいます。また、病院で病気をもらってしまう可能性もあるため、病院に連れて行く回数は少ない方がよいでしょう。



同時接種をすることで、副反応が強くなってしまわないかと心配するお母さんもおられると思います。しかし、同時接種で副反応が増える心配はありません。また、それぞれのワクチンの効果が弱くなることもありません。

● 追加接種も忘れずに！

2か月のワクチンデビューの後、生後半年くらいほぼ毎月ワクチンの接種があります。不活化ワクチンは生ワクチンより反応性が弱いため、どうしても複数回の接種が必要です。決められた回数接種を完了して、初めて免疫の効果が期待できます。

● かかりつけ医を探そう！

ワクチンで防げる感染症は一部だけです。赤ちゃんは病気にかかりやすく病院に通う機会が多いため、早めにかかりつけ医を見つけおきましょう。予防接種機関とかかりつけ医は別でも母子健康手帳に記録が残っているので大丈夫です。お子さんが思春期になったら、自分自身で健康管理をしていくよう手渡してあげてください。

